

体育学研究科修士課程スポーツ国際開発学共同専攻担当教員研究領域等一覧

【専任教員】

① 研究指導担当教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	山田理恵 (教授)	オリンピックムーブメント論 研究方法論 スポーツ国際開発学課題演習 課題研究	日本とドイツの場合を中心に、固有の伝統的スポーツや身体運動をめぐる諸現象を比較・検討し、スポーツ文化の伝統性や特性などについて歴史的、社会的、民俗学的考察を行っている。
	萩原悟一 (講師)	スポーツ国際開発論Ⅰ スポーツ国際開発学課題演習 課題研究	「多くの人々にスポーツに傾倒(する・みる・支える)してもらうためにはどうすればよいのか」を主なテーマに行動科学や社会心理学の理論的背景を援用しながら、その行動プロセスを読み解くことを研究している。また、欧米と日本の国際比較から、わが国のスポーツ実施者の特性を明らかにすることを研究している。

② 授業担当教員

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	森克己 (教授)	オリンピックムーブメント論 スポーツ国際開発学課題演習 課題研究	スポーツは「世界共通の人類の文化」(スポーツ基本法前文)である。また、「文化」とは、「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果」(広辞苑)のことである。日本で20数年前に学会が設立されて本格的に研究が開始されたスポーツ法学は従来日本の実定法学が対象としてこなかった「文化」を対象とする新しい法学であると認識されている。スポーツと法に関わる人類学的な問題について、その歴史的な背景を踏まえ、スポーツ法学的な手法を用いて考察している。
	北村尚浩 (准教授)	スポーツ国際開発論Ⅰ スポーツプロモーション論 グローバルスポーツ産業論 研究方法論 スポーツ国際開発学課題演習 課題研究 On the Job Practice(International)	スポーツを中心としたレジャー・レクリエーションの社会科学的研究を主要研究領域とし、生涯にわたるスポーツ・ライフスタイル形成の視点から、特に学校での教科体育や運動部活動をはじめ、スポーツ少年団や地域スポーツクラブなどにおける青少年スポーツのあり方や、レジャー・レクリエーションの社会的意義について検討している。
	イスラム モハモド モニル (准教授)	ヘルスポモーション論 スポーツ国際開発学課題演習 課題研究	1)わが国における地域在住の健康な高齢者から施設入所している高齢者を対象に介入運動に関する研究している。今後は発展途上国の高齢者の日常生活上身体活動量の測定とともにその人たちの身体活動量を高める方法に関する研究行う予定。 2)発展途上国の上水と下水問題解決法(雨水利用及びサニタリートイレ利用など)に関する研究している。